

平成7年中の県下の交通事故

(平成7年12月31日現在)

年別	区分	発生件数	死者	傷害
平成6年		5,202件	114人	6,896人
平成7年		5,440件	96人	7,113人
比較		+238件	-18人	+217人



◇ 第111号 (新年特別号) ◇

発行所
〒400 甲府市丸の内一丁目9-11
県民会館2階
財団法人 山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 32-4682
(0552) 37-7827



河口湖暁雲 小林幹男氏撮影

明けましておめでとうございます。皆様方にはお健やかに新春をお迎えになられたこと、心からお慶び申し上げます。

日ごろ皆様方には、私ども交通安全協会の運営と交通安全活動に深いご理解とご支援を賜わりまして、衷心よりお礼申し上げます。

きましては、前年より十八人減の九十六人に止めることができました。しかし発生件数と傷者が増加していることは残念至極です。

本年も交通情勢は更に厳しさを増して行くものと思われませんが、私もは去る一月二十三日に初の試みとして開催しました「平成八年交通安全



(財)山梨県交通安全協会会長

志村 哲良

さらに交通死者の減少を

昨年度私どもは、増加を続ける交通事故に歯止めをかけようと、県警察のご指導を戴きながら、関係機関・団体と協力いたし、各種活動を積極的に推進してまいりました。

お除様をもちまして、最重点課題として取り組んでまいりました交通事故死者数の「二桁抑え込み」につ

全推進県民大会」で行った宣言に思いをいたし、交通事故の減少、特に交通事故死者数の二年連続「二桁抑え込み」を重点課題として、一丸となって取り組んでまいりました。

皆様方のお一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

平成八年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

交通安全協会の皆様におかれましては、平素から警察行政全般にわたって、ご理解とご協力を賜っており心から敬意を表します。

さて、県内の交通情勢は、自動車の保有台数並びに運転免許保有者数の増加などの量的拡大や高齢化社会の進展、生活の夜型化などの質的変化を背景に交通事故は増加の傾向にあります。

本年も、警察活動の重点として「交通秩序の確立と死亡事故の抑止」を掲げ、交通事故のない安全で住みやすい山梨を築くために、努力をして参りますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。



山梨県警察本部長

加地 隆治

安全で快適な社会の実現

このように厳しい交通情勢の中で、昨年の本県の交通事故による死者数は、九十六人と二年前に二桁台に抑えることができましたが発生件数と負傷者数は、相変わらず高い水準

県交通安全協会では、一月十日、中戸摩郡昭和町のアビオで本年初の県安協理事・監事・評議員合同役員会を開催し、平成八年の交通安全活動のすめ方等について協議しました。

続いて議事に入り、初めに、補正予算案を審議してこれを可決したあと平成八年中の交通安全活動のすめ方について協議しました。

その結果、「全交通事故の減少と二年連続死者数二桁抑え込みの実現」を目標とし、そのために安協役員は「地域に根ざした有効な防止策を企画し、白らが先頭に立って実践していく」ことを決議し、年間を通じてのたゆまぬ努力を誓いました。

また、この中で、昨年五月の合同会議以降に受賞された

年頭に決意新た さらに事故減少を誓う

＝県安協合同役員会＝

会議では、志村哲良会長が年頭の挨拶を行い、「昨年は死者数を九十六人と二桁に抑え込むことができた。今年も交通情勢は厳しいが、役員は全力を尽くして交通安全活動に取り組み、二年連続して

死者二桁抑え込みを実現し、定着化を図らなくてはならない」と強調しました。

○警察協力賞受賞の
県安協副会長
八木 吉治氏

○県政功績者受賞の
県安協副会長
松田 良一氏
富士吉田安協会長
田中 経策氏



県安協合同役員会の状況

大型自動車指定自教でOK 今秋から道交法の一部改正

大型自動車二輪免許の取得のための教習を指定自動車教習所で行えることなどを盛り込んだ道路交法の一部を改正する法律が、平成七年四月二十一日に公布され、今年（八年）の秋に施行されます。

その概要を紹介しましょう。

一、免許種別は二種類に
新しい一輪免許は、四〇ccを境にして「大型二輪免許」と「普通二輪免許」になります。これを現行免許と照合しますと、

○現行の「限定なし」は「大型二輪」に
○「中型限定」は「普通二輪限定なし」に
○「小型限定」は「普通二輪二五限定」に
○取得年令は
大型二輪免許が十八歳
普通二輪免許が十六歳になります。

二、大型二輪免許の取得
指定自動車教習所での教習を修了して技能検定に合格すれば、公安委員会の行う技能試験は免除

「一人の人間の希望あふれる人生を、ばつさり切り取り、うばい去った交通事故」

暗い十字路の大きなブレイク跡、ぐしゃぐしゃになった車。急いで式場に向う途中、ハンドレールに激突、宙を舞って、ほろり出された花嫁。

ちょうどその日は私の先輩にあたる女性の結婚式でした。警察も救急車もよばず彼女が近くの人に手伝ってもらい、式場へ。花嫁衣装に身をつつんで倒れ、そのまま帰らぬ人となってしまったのです。

「一番幸せな日になるはずだったのに。」一瞬にして、不幸のどん底に。彼女をとりまく人達のシヨックは、どれ程だったのか、想像もつきません。また、昨年私は、目の前で車にはねられ、大けがをした先輩の姿を見ました。今ではその先輩は元気に高校に通っています。

ゆとりの心で 交通戦争に終戦を

泉中学校二年 浅川 鮎子



交通量、夜中までひびく改造された車の音。優越感にひたり、自分だけよければという若者の暴走に、苦々しい思いをし、たがひたがひと、若者だけが先を急ぐ。待たせて、先を急いで交通ルールを無視していったり、不自由な生活をしている人達が、いっぱいいるのです。

私父は免許をとって二十年以上のドライバーの一人です。お酒の大好きな父ですが「飲んだら乗らない」をがんに守り、アルコールが入るとどんなに寒い日でも歩いて帰ってくる慎重なところがあります。いつだって私に「少しくらいなら運転してもいいよ」と言われ、お父さんは長生きして孫の顔を見

全てが高速化される現代において、車は確かに欠かせない交通手段の一つです。その機能は時代が進むにつれますます高くなり、よりスピードがでて、快適な運転ができる最新の車が、次から次へと生まれてきています。

自然豊かな私達の村、大泉でさえも最近のリゾートブームで急に増え

「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」またたくそのとおりで思

「せまい日本、そんなに急いでどこへ行く」またたくそのとおりで思

原付利用者は受講を

「原付等安全講習」制度スタート

原付車による交通事故が増えています。昨年県内では、原付車による死者が七人もありました。

こうした事故を減らすためには、日ごろ原付車を利用されている方を中心に、原付車の安全な乗り方を学んでいただくことが是非必要であり、希望者があれば、いつでも安全講習ができる制度と体制を確立しておくことが必要であるということから「原付等安全講習」制度が誕生しました。すでに実施されている県も

原付車による交通事故が増えています。昨年十月一日「山梨県原付等安全講習強化推進要綱」をスタートさせ、いつでもご希望に添えて安全講習ができる体制ができました。

この制度の概要は次のとおりです。受講を希望される方は、最寄りの交通安全協会事務局（警察署内）へご相談ください。

○受講対象者
原動機付自転車等が運転できる運転免許の取得者で、日常生活や業務で原付等を運転している方です。

○講習会場
身近な場所に設定します。

○受講内容等
実技講習を中心とした

カリキュラムに従い、一五〇分程度行います。

○講師
二輪車安全運転推進委員会認定の指導員等が担当します。

○受講料
一人当たり三千元です。

○使用車両
受講者の持ち込みとします。

○その他
実施日時・場所については、希望者を見ながら決定し、連絡いたします。

原付車での事故をなくすため、原付利用者の受講をお待ちしています。

自動車や原付自転車には必ず任意の自動車損害保険代理店 株式会社 たいよう共済山梨支店

甲府市丸の内2丁目32-13 日東ビル4階 TEL0552-28-0691

無料 交通事故ご相談

電話のご相談もお受けします ☎0552-28-8355 (直通)

財団法人 日本損害保険協会 甲府自動車保険請求相談センター

甲府市丸の内3-16 住友生命山梨ビル3階 甲府駐在事務所 TEL0552-28-8810

原付車での事故をなくすため、原付利用者の受講をお待ちしています。

平成八年 交通安全年間スローガン

(最優秀作、内閣総理大臣賞)

運転者(同乗者も含む)向け

運転は ゆったりハートにしっかりベルト

歩行者・自転車利用者向け

つけようね わが身を守る反射材

子ども向け

“ま、いっかー” そんな気持ちが事故のもと



年末年始の交通事故防止県民運動は、十二月十日から一月十日までの十二日間行われました。運動期間中の県内での交通事故発生状況は、発生件数四百六十五件(前年同期比三件増)、死者九人(四人減)、傷者六百十八人(二十九人減)でした。安協役員は、二百九十五人が出動しました。



着用率の調査をする安協役員(小笠原)

シートベルト着用率を検証

小笠原交通安全協会(松田良一会長)では、小笠原警察署と榊形・白根・若草・甲西の四町と芦安村の協力のもと、昨年五月から十二月までの間「シートベルト着用チャレンジ100%運動」をす

すめてきました。この運動の成果を検証しようとする十二月八日午後、四町一カ村の主要道路五カ所で、時を同じくして一斉に着用率の調査を行いました。この調査には、安協役員が二十五人出動し、各調査場所に五人ずつ配置され、警察官、役場職員とともに、午後一時三十分から一時間にわたって通過車両の運転者を対象に実施したもので、その結果、県内運転者の着用率は、調査台数四百五十一台に対して、八〇・五%ということでした。これは、昨年八月の調査結果より八・六ポイント向上しており、長期に



三魂交通安全社で事故減少を祈る(富士吉田)

わたる安協役員のご活躍のあとがかがわれました。ご苦労さまでした。

交通安全社で安全祈願

富士吉田交通安全協会(田中経策会長)では、一月十一日午後、河口湖町船津の三魂交通安全社で交通安全の祈願をしました。



武田神社で交通安全を祈願

け、一回これに合わせて平成八年の交通安全の減少、特に死者数は昨年引続いて二桁抑え込みを祈願しました。また、新たに配置されたバイクや白バイなどの無事故災をも祈願しました。

交通事故の減少を祈願

県交通安全協会

県下の交通安全協会では、地域に根ざしたより有効な交通安全活動を行っていくため、毎年、数安協の正副会長で構成されたブロック会議を開催して意見交換をし、活動の場で生かしています。峡南地区の鵜沢・南部・市川の三交通安全協会が構成する峡南ブロック会議は、一月十八日鵜沢町内の立よしで開催されました。



峡南ブロック会議の状況(鵜沢)

高齢者事故防止などを協議

峡南ブロック会議

への進展に伴い、高齢者の関係する交通事故が増え、特に昨年は、六十五歳以上の死者は二十七人で死者の三〇%にも達していることから、「高齢者の交通事故防止対策」を中心テーマとして意見が交わされました。

“もしも”に備えた 災害補償金付反射材

》全国に先駆けて販売中《

得て、全日本交通安全協会幹旋の反射材の販売をしていますが、より多く

婦人部の活動

支部単位に研修会

小笠原交通安全協会婦人部(河西美佐子部長)では、県内の交通事故による死者が、高齢者などの交通弱者に多く見られることから、婦人部の特性を生かしたきめ細かい交通安全活動の積極的な推進



榊形支部婦人部研修会の状況(小笠原)

この計画によって現在までに研修会を開催した支部婦人部は、榊形支部婦人部、十一月二十七日夜、米山房子婦人部長以下二十五人、若草支部婦人部、十二月二日夜、青柳勝子婦人部長以下二十五人の二回です。研修会では、小笠原警察署伊東春福署長による安協の沿革と性格、活性化方策等についての講話、交通課員による街頭活動の根拠と留意点の解説及び実技指導が行われ、また、交通安全映画「この

は、県交通安全協会から一定の見舞金をお贈りするといふものです。交通事故は、購入後一年以内の事故とし、見舞金の額は、三十日以内に死亡されたときは、五十万円、三十日を超える医師の治療を要する障害を負われたときは、十万円です。なお、請求できる期間は、交通事故に遭ってから二年以内です。詳細は、県安協事務局(県民会館二階)または県下各交通安全協会事務局(各警察署内)へお問い合わせください。

新年互例会を開催

葦崎交通安全協会婦人部(菊島直子部長)では、一月二十一日甲府市内湯村グランドホテルで新年互例会を開催しました。この互例会には、葦崎警察署長、県安協専務、葦崎安協会長等も臨席し、約七十人が参加して盛大に行われました。